

会 議 録

会議名称	第6回柳川市民文化会館（仮称）基本計画検討委員会
日 時	平成27年4月13日（月） 14:00～15:45
会 場	柳川市城内コミュニティ防災センター
出席者	[委 員] 姉川委員、草場委員、椛島（道）委員、安永委員、 生田委員、古賀（俊）委員、古賀（理）委員、大橋委員、 椛島（和）委員、原委員、勝見委員、今村委員、黒田委員、 古賀（弥）委員、齋藤委員 [事務局] 樽見教育部長、袖崎生涯学習課長、野田文化係長、 堤文化係長、生涯学習課文化係 須崎、堤（智） （株）シアターワークショップ 伊東、今川
欠席者	[委 員] 立花委員、武末委員、森田委員、壇委員、野田委員、 大森委員、
議 題 等	1 開会 2 会議録の確認 3 議題 （1）3/26 市民ワークショップ結果の報告について （2）諸室機能等の検討について 4 その他 （1）今後の予定について 5 閉会
会議資料	資料① 第4回市民ワークショップまとめ 資料② 柳川市民文化会館（仮称）委員会・市民ワークショップ意見（抜粋） 資料③ 柳川市民文化会館（仮称）施設機能構成イメージ 資料④ 柳川市民文化会館（仮称）基本計画策定スケジュール（案） 参考資料 筑後市美術展 展示レイアウト
次回会議	平成27年4月27日（月）14:00～ 柳川市城内コミュニティ防災センター

＜審議結果は次のとおり＞

1 開会

主管部署が4月より変更となり、教育部生涯学習課が担当することとなりました。

2 会議録の確認

3 議題

(1) 3/26 市民ワークショップ結果の報告について

- ・13名の出席。
- ・前回の委員会同様に2案を提示して、意見を出していただいた。
- ・このまとめの資料は、市民ワークショップの意見のみ。
- ・イベントホールと小ホールの違いは、イベントホールは平戸間で固定席のないスペース、小ホールは固定席の小さなホールという意味。
- ・市民会館の大会議室は、その方がイメージが良いので「小ホール」と呼んでいる。
- ・小ホールが、固定席案と平土間型イベントホール案ということ。平土間型イベントホールは、いわゆるブラックボックスで、舞台が変更できる、椅子も動く、暗転ができるという考え方。
- ・固定席と可変席のどちらが良いかと意見を聞いてみたが、可変ホールが良いのではないかと意見が多く、大きいホールが良いということではなかった。800席の可変ホールが使いやすいのではないかと意見が多かったが、音や演劇などに特化したもので外から人を呼び込むホールという意見も、少数だがあった。
- ・オーケストラのコンサートは可変席でも音響性能は十分取れる。舞台も工夫をすればフルオーケストラに対応できる。
- ・椅子を引き込むロールバック方式と、ブロックごとで椅子を舞台側に移動させて収納する方式の大きく2パターンがある。

(2) 諸室機能等の検討について

- ・総合美術展で、秋の大事な時期に体育館を使用することには、いろいろな意見はあるが、美術展としては今の状態で満足している。場所を変えることで、作品を小さくするなどという提案には、反対意見が多い。体育館を使用することも問題であり、展示の設営のために費用がかかるのも問題。照明も良いわけではないが、おおむね満足している。

- ・新しい施設で行うことが市の要望であれば、可変型のホールでなければ難しい。運営委員会とのすり合わせ、展示可能なスペース、設営の仕方、照明などを十分に検討する必要がある。
- ・美術展用としてではなく、一般的な利用としてギャラリーが欲しい。
- ・美術展を行うのに良い空間が欲しい。ホールと一緒にすると、音響が悪いとか、展示環境が悪いとか、どっちつかずになるので、美術館をつかって欲しいという意見もある。
- ・水の郷の引き込み型の椅子にして音響が悪いとか、大牟田文化会館のように展示会場としては良くないなど、どっちにとっても良くないというものは避けたい。
- ・水の郷は音響的にデッドで非常に反響が少ない。最近の施設では、このような問題もクリアできているので、リニューアルを少しすればよくなる。
- ・引き込み型にすれば展示もできることになる。
- ・体育館と美術展が合わないように、美術展とホールも合わない。互いに良い時期を取ろうとすると、文化の日にやりたいことが重なる。美術展と体育館、美術展とホールは、所詮合わない。
- ・ギャラリーは常設作品の展示には問題はないが、個人の個展にはホールを使用したがる。デパートの貸展示室など、不特定多数の方が来る場所の方が好まれるので、ホールのギャラリーは使う人が少なく、最も稼働率が低い。ギャラリーに外光を入れるのは、やめたほうが良い。ギャラリーに外光が入ると、描いている部屋の照明とは異なり、絵の具の色が違って見えると絵の先生にいわれた。
- ・時間軸で考えると、催しと大規模展示会は時期がバッティングする。小さなギャラリーは稼働率が低い。
- ・美術展は、既に27年間体育館で行っているので、体育館が良い。20日間体育館を潰すのと同様に、文化ホールも使えなくなる。体育館は設営にお金がかかるということはわかっている。
- ・もともと、展示とホールは別に建てるべきものという意見があった。
- ・展示と文化事業が相容れないことは理解している。市として、新しく文化施設をつくるので、新しい方に移ってもらいたい。新しく美術館を建てるほどの予算はないので、この件については、引き続き協議させていただきたい。
- ・美術展の開催時期をずらすことはできないか。ホールは2月、5月、8月、12月は少ない。
- ・美術展は白秋祭の事業の一環として、この時期になっているので、市の

考え方次第だと思う。

- ・ 時期をずらすと、白秋祭を犠牲にすることになるのではないか。
- ・ 主催が市なので、文化事業の組直しをするのであれば、検討できる。
- ・ 何ヶ年計画といった計画などで、トータルでスケジュールを考えていく必要がありそう。
- ・ 展覧会は出品することを目指して作品をつくっているのですが、日にちを変えるのは簡単ではないが、どこかでやる必要がある。
- ・ 管理運営計画の中で、事業計画もつくる必要があるのでは、検討したい。文化事業は文化施設に集約する方向で考えたい。引き続きの協議したい。
- ・ カーペットの部屋では飲酒、飲食はさせない。P タイルやフローリングであればできる。カーペットだと食べ残しで床が汚れ、虫が出て、ネズミが出て、ネズミに電線がやられるといったことにつながるから。
- ・ イベントホールは使い勝手が良い。創造型のホールであるというコンセプトは、可能性がある。
- ・ 市民創造型に方向性を設定するのであれば、リハーサル室、創作室、人の集まる部屋は必要である。
- ・ 物を置くところがなく、倉庫も苦勞している。
- ・ 創造系、ファクトリーを持つ施設としては、90年代の初め位から、創造拠点を目指す施設には、大きなリハーサル室、音響制作室、大道具のたたける部屋などが設けられた。最近はこのような施設が増えている。
- ・ 小ホールは必ず必要なのか。小ホールと大ホールをつくるのは決定か。
- ・ 決定ではないが、どこかのタイミングで方針を決める必要がある。音響性能の良い、使い勝手の良いホールがないという意見が多く出ていますので、小さなホールも必要ではないかと思ひ、案に入れていひる。
- ・ 水の郷にもホールがあるので、新施設は、平場でスペースを可変して、多目的で、大きくすると展示にも使えるという考え方もある。
- ・ あめんぼセンターのホールは150人位なので、できれば250～300席の音楽ホールが欲しいが、200席でも良い。ちゃんとしたグランドピアノを設置してほしい。
- ・ 大和公民館は、反射板はあるがピアノが悪い。水の郷は音響が良くない。200席位の音響の良いホールは欲しい。
- ・ あめんぼセンターでは、入場料が取れない。例外として認めて欲しい。
- ・ 柳川のピアノ発表会を行うために、城島まで行く。柳川にあればいいのにと思ひた。
- ・ 個人のピアノ教室の発表会は、あめんぼセンター利用だが、もう少し大きな規模、ジュニアコンクールとかになると、城島を利用する。

- 200 席の小さい地方のホールであっても、音の良いホールであれば、お金を払って来ると考えてよいのか。
- 柳川で吹奏楽をやっているが、水の郷、市民会館以外に、練習では三橋公民館を利用している。
- 中学、高校の吹奏楽の定期演奏会の場合、高校は市民会館で 500～800 席規模、中学であれば 200 席とかのホールは需要があると思う。1000 席になると中学では難しい。高校は徐々に観客も減ってきている。音の良い 300～400 席程度のホールがあると需要がある。
- 幼稚園では、水の郷ホールを毎年利用している。400～500 人位であるが音響が悪く苦勞している。それぞれの立場でいろいろな規模の希望があるが、大ホールを仕切って 400～500 人に対応できれば、この部分もカバーできる。
- 平土間ホールは、空間をどのようにでも使えるという考え方で、座席もいろいろ配置できる。200～300 席の場合は小ホールを使い、それ以上の規模の場合は、大ホールの一部を利用することもできると考えることが可能。
- 大ホールを平土間にしても、クラシックの良い音響の可能性は十分にある。昔は平土間というと展示場だったが、建築音響をきちんと計画することで、今はいろいろできるようになっている。
- 以前は、段床の固定席が基本だった。床を平らにするために、段を昇降させて椅子を反転させる機構が考えられた時期もあるが、あまりにも大掛かりで、その後ロールバック式ができた。ただし、収納場所が固定だと邪魔になるなどの問題があり、更に自由に椅子を移動したいという方向に進化してきている。残響可変を入れているホールは全国的にも多い。平土間のメリットは、いろいろなことで集客できることである。
- 今は、建築音響をきちんと考えていけば、折り紙つきの音の良いホールとすることはできる。ロールバックはステージに向かっての一方向であるため、パターンが限られる。今のロールバックの椅子は質が良くなっている所以心配ない。平土間になると何にでも使える。
- どこにでも光を当てられる構造、舞台音響も多方向に対応できるように考えることで、面白いホールになる。
- 茅野市民館は椅子の移動に時間はかかるが、動かすことだけでなく、安全点検や状況を確認するのに時間がかかる。催しの仕込には時間がかかりますので、移動にかかる 2 時間をどのように考えるか次第。
- 水の郷は、文化サークル、体操など、他の部屋では入らないものはホールを平土間にして行っている。6 月にはジャズライブを行った。子供演

劇教室で発声練習、柳川ブランド推進室の商品プレゼン会場などにも利用されている。どのように使うかという活動をもっと行えば、利用が増えると思う。便利である。

- 大ホール、小ホール、イベントホールの3つで考えられないか。小ホールが500人の想定だったと思うが、200～300席のホールにすれば、イベントホールが取れないか。
- 大ホール+小ホール、又は大ホール+イベントホールの組み合わせと考えている。3つのホールという考えはない。固定小ホールの場合は大ホールが可変席、小ホールがイベントホール形式の平土間の場合は、大ホールは固定席と考えている。
- 小ホールとしてつくってしまうと、イベントホールのスペースはないということか。小ホールの場合、スペース的にどの程度まで、できるのか。
- 大ホール800席+小ホール500席は無理。800～1,000席大ホールの場合、最大でも300席と考えている。敷地も13,000㎡程度しかなく、駐車場も設けなければならないため、建築面積はできる限り抑えたい。詳細は設計段階で検討する。
- 敷地の中央にホールがあるが、もっと使えそうな気がする。きちんとした音響の良い小ホールを優先させると、いろいろなことのできる外の方の開けた空間は望めないということか。
- 観光と新しいホールについては、「水辺と音楽を活かす空間」という意見が出ている。
- 掘割もステージになるかもしれない。舞台だけがホールではない。ホールから外に出たいということを考えるので、掘割は絶対である。バイオリンコンチェルトで、どんこ舟の上から演奏しながら入ってくるなどいろいろ考えられる。地域で「おらがホール」の意識を持つことが大事。どんこ舟を半額にするなど計画すべき。チケットを見せて受けられるサービス、ホテル・飲食の割引など。ホールと地域が近い関係にないと駄目である。指定管理料が安いだけで判断してはダメ。
- 機能図は、皆様のご提案を含め、次回はもう少し精度の高いものを出したいと考えている。展示ギャラリーをいろいろな用途に使えないか、小ホールなのか、イベントホールなのかなど、300人を最大規模のホールとして検討したい。会議室は水の郷やプールの会議室もあるため、今回の構成図では割愛している。練習室や楽屋を会議室として使用できるように考えることも可能。

4 その他

- ・文化会館の建設については、パブコメでも市民意見を聞く予定。
- ・アンケートの内容は、市民の方々がどのような文化活動を望まれているのか、生活の中でどのような文化環境を望まれているのか、といった文化振興に特化した内容に変更している。

5 閉会